



IFES Issues and Analysis - NO.85 [2019-03] Apr. 29, 2019

4・27板門店宣言1周年に当たり
「遠い道、本当の上り坂はこれから」



金東葉
慶南大極東問題研究所教授
donykim@kyungnam.ac.kr

2019年も朝鮮半島には春が訪れたが、1年前の2018年に迎えた春のような暖かさは感じられない。期待とは裏腹に南北関係に弾みがついていないためでもある。だが、連日のように核実験やミサイル発射のニュースが絶えなかった2017年前のことを思い浮かべると、今の春が暖かくないというのはいえない。大変だった時期のことは顧みず、希望や欲が大きいためかもしれない。「板門店宣言」は誰もが予想できなかった大切な贈り物だった。

1年前に戻ってみよう。11年ぶりに開かれる首脳会談のため、北朝鮮の最高指導者が南北分断後初めて軍事境界線を越え、韓国側地域(板門店)に入った。南北首脳が手をつないで南北の軍事境界線をまたぐ姿や「徒歩の橋」で対話する姿が与えた感動は今でも生々しく残っている。両首脳は板門店でこれ以上戦争のない新しい平和の時代が切り開かれたことを言明し、南北関係の発展や軍事的な緊張緩和、戦争危険の解消、そして朝鮮半島の平和体制を構築していくことで合意した。その日の合意を履行していく過程を通じ、南北関係の発展が加速し、朝鮮半島に実質的な平和が定着した。「板門店宣言」以降の1年は南北が交わした約束を履行していくための努力の過程であり、意味のある時間だった。

「板門店宣言」後の1年を振り返ってみると、多くの出来事があった。分断後、わずか2回しか開かれなかった南北首脳会談が「板門店宣言」後、2度も開催された。2018年だけで首脳会談が3回も行われ、南北首脳的意思疎通が一段階飛躍し、信頼を固める契機となった。首脳間の合意事項の履行を体系的に推進するための分野別の南北会談が進められ、開城の南北共同連絡事務所を開所し、常設的な協議体制を整え、南北関係制度化の基盤を構築した。社会・文化・体育・歴史・保健医療・宗教・メディアなど様々な分野の交流協力や離散家族再会事業の再開を通じ、南北の和解や同質性の回復に向けた土台をつくり、鉄道・道路連結、漢江河口の共同利用推進で朝鮮半島共同繁栄の礎を築くことができた。

1年の間、2回の米朝首脳会談(シンガポール・ハノイ)が開催できたことも驚くべき出来事である。南北首脳会談が南北関係の修復や正常化を超え、非核化交渉や米朝関係の正常化プロセスを後押しする促進剤の役割を果たすようになったため可能なことだった。「板門店宣言」の第3条に明記されたよう、南北関係はこれ以上、北朝鮮の核問題や米朝関係を追うものではなく、導く道しるべである。南北関係の発展は米朝関係を後押ししながらも、朝鮮半島における平和体制の構築や非核化を切り開く鍵である。板門店の北朝鮮側地域である統一閣で開かれた2回目の首脳会談は平凡な日常のように行われたが、危機に陥っていたシンガポールでの米朝首脳会談を開催できるようにした。ハノイでの2回目の米朝首脳会談では意味のある合意を引き出せなかったが、「板門店宣言」以降、南北関係の発展が米朝交渉の勢いを維持させ、対話を通じた問題解決を図る立場を維持させる重要な柱になっていることは間違いない。

平壤での3回目の会談では「板門店宣言」を履行し、南北関係を新しい高い段階に進展させていくための「9月平壤共同宣言」を採択した。とりわけ、「板門店宣言軍事分野履行合意書」を平壤共同宣言の付属合意書として採択し、偶発的な衝突防止やDMZ(非武装地帯)の平和地帯化に向けた実質的な措置を履行したのは「板門店宣言」以降の1年間、南北関係における最高の成果として十分に評価される。地上や海上、空中で緩衝地帯が設けられ、相互の敵対行為が中断された。近接する11カ所のGP(監視所)が撤去され、JSA(共同警備区域)を非武装化した。南北共同遺骨発掘のため地雷を除去し、道路を連結して南北の軍人が出会う姿が演出された。いつも棚上げになっていた南北の軍事問題を先に解決し、軍事的な脅威や戦争の危険を終わらせ、事実上休戦レベルの南北関係を確保した。南北住民の生活に平和を日常化させ、南北関係は逆戻りできない平和の時代という歴史的な里程碑をつくった。

何より、板門店宣言以降の1年間、最も大きな変化の中心には北朝鮮がある。2017年11月29日の「火星—15型」発射後、北朝鮮は核実験やミサイル発射を実施していない。「板門店宣言」の直前だった昨年4月20日、北朝鮮は並進路線を捨て、経済建設に邁進する新しい戦略路線を選び、核実験やミサイル発射実験の中断を宣言した。5月24日には豊溪里の核実験場を廃棄した。9月の平壤首脳会談で南北首脳は非核化の方針を対内外に公式に言明し、平壤共同宣言に東倉里のエンジン実験場の廃棄や寧辺の核施設の廃棄を盛り込んだ。韓国大統領として初めて北朝鮮

の5・1競技場で平壤市民に直接、朝鮮半島を永久に核兵器や核脅威のない平和の地にすると演説したことも北朝鮮の変化なしでは不可能なことだった。金正恩委員長が米朝首脳会談のため、シンガポールとハノイに出向いただけでも北朝鮮が変化の意志を明確に示したものだ。「板門店宣言」は北朝鮮が変化できる契機をつくり、北朝鮮を抱き込んだ。

それにも関わらず、紆余曲折の中、ハノイでの米朝首脳会談後、現在の状況は南北関係まで停滞しているのが事実だ。しかし、周りを見ると、今も南北の人たちが会い、少なくない人たちが平壤市内を歩き回っている。懸念とは裏腹に、米韓合同演習の中止にも関わらず、韓国の安保態勢は問題なく維持されている。高城の非武装地帯内(DMZ)に平和の遊歩道が設けられ、板門店宣言から丸1年となる4月27日から一般国民に公開される。戦争の恐怖から脱し、平和が日常化した。「板門店宣言」の生命力はそう簡単に弱まらない。

「雨降って地固まる」とのことわざがある。辛いことが起きた後はかえってより強くなるという意味である。休むことなく走り出すように見えた南北関係が傾斜が大きい上り坂の前に行き着いた。遠い道を歩み始め、予想しなかったことではないはずだ。すでにこの1年の間にも数多くの障害を乗り越え、上り坂を上った。しかし、本当の上り坂はこれからである。上り坂に上る前、少し一息つく間が必要である。「板門店宣言」の3条・13項や「平壤共同宣言」の6条・14項の約束がどのくらい履行され、また履行しようと努力してきたが、立場を変えて振り返る必要がある。何より、制裁がなされている状況のなかでも南北の軍事分野の合意事項を中心に支障なく履行し、平和で安定的に南北関係を維持していく原動力にしなければならない。

ハノイでの米朝首脳会談後、南北関係も浮き沈みを経ている中、特使の訪朝やワンポイント首脳会談を通じ、北朝鮮を再び対話のテーブルに引き戻すことも有用な方法であることは間違いない。米朝の非核化交渉が難航し、米国内の対北朝鮮強硬派の浮上や韓国内でイデオロギー的な政治攻勢が強まっていることから、国際社会との協力を強化し、国民の共感を得ることも重要である。しかし、こうしたイベント性の解決策や短期的な処方箋には限界がある。南北関係が遠い道なら、政治的な悩みを優先させたり、目に見える成果にこだわったり焦ったりする必要はない。より根本的に北朝鮮の変化や選択を念頭に置き、南北関係の自律領域を確保していく努力と共に、政策の優先順位を明確にしなければならない。

4月27日の「板門店宣言」以前と以後の南北関係が違ふとすれば、これからの南北関係は「板門店宣言」1周年を機に改めて変化し、進化しなければならない。「板門店宣言」後の1年間、期待と希望が先行したとすれば、これからはやれることを計画し、実現していかなければならない。今、少なくとも喪失感を感じていることもこの1年間、やろうとしたこととやれることの差が大きかったためである。3・1節の記念演説で言及されたように、南北が一緒に主導する100年秩序の「新朝鮮半島体制」を実現するためにも、いかなる対価を払っても南北関係を優先する意志や能力があることを先に示すべきではないか。

統一閣での2回目の南北首脳会談後、文在寅大統領は「山の頂上が見えるときから一步一步が辛くなるように…決して順調ではないと思う」と述べた。南北関係はこれからの本当の上り坂である。しかし、われわれの前に置かれている上り坂は少し大変だとしても、南北がせっかくつないだ手を離さず、勇気を持てば十分に上れる上り坂である。いかに大変な上り坂であろうと、南北が共にすれば本当に幸せではないだろうか。

MORE ARTICLES

一メールリングリストに登録をご希望の方はお名前や電子メールアドレス、所属先を下記のメールアドレスまでお送りください。 ifes@kyungnam.ac.kr

You can remove your email address from our mailing list by clicking link below

[\[No longer receive e-mail\]](#)



경남대학교 극동문제연구소
The Institute for Far Eastern Studies

COPYRIGHT(C) 2010 IFES ALL RIGHTS RESERVED
2(Samcheong-dong) Bukchon-ro 15-gil, Jongno-gu, Seoul 110-230,
Republic of Korea
TEL. +82-2-3700-0739 FAX. +82-2-3700-0707
EMAIL. ifes@kyungnam.ac.kr